

2023年6月5日

報道関係各位

*本資料の配布先：京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、
大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会株式会社アイシン
立命館大学**株式会社アイシンと立命館大学が
「人とモビリティの未来を拓く」共同研究を開始
～産学連携によりモビリティの新たな価値を創出～**

株式会社アイシン(以下、アイシン)と立命館大学(以下、立命館)は「人とモビリティの未来を拓く」というテーマを掲げて、「総合知の発揮」に向けたこれまでにない革新的な共同研究をスタートしました。

自動車業界は「100年に一度の大変革期」と言われており、自動車の価値は単なる所有、移動手段ではなく、サービスの付加価値が問われています。

アイシンは、総合自動車部品メーカーとして、リアルな移動の進化に貢献するだけでなく、人々の「心」を動かすようなあらゆる“移動”体験を世界中の人々に提供するための様々な技術開発に挑戦しています。カーボンニュートラルをはじめとする様々な社会課題が顕在化するなかで、当社がこれまで培った技術を活用し新たな価値創出につなげるためには、柔軟な発想で社会全体や生活者のニーズを見定め、イノベーションにつなげる視点が必要となっており、異業種や大学との連携を進めています。

立命館は、社会課題の発見・解決、新しい価値の創出を志向する場として、総合大学の強みをいかした文理融合でさまざまな研究を進めています。とりわけ、立命館大学デザイン科学研究センターは、デザイン科学の中核拠点を形成し、「人々が“豊かな生活”を実感することのできる時空間の創造」にむけた学術的研究を推進しています。

今回の共同研究は、日本トップの研究力を誇る立命館の「デザインサイエンス」の知見とアイシンが持つ「技術開発力」や「ものづくり力」を掛け合わせ、従来の思考ではたどり着けなかった新しいモノの見方・考え方を再構築し、モビリティの新しい価値の創出をめざします。人文社会分野でメーカーと大学が共同研究を行うことは、日本でも珍しい取り組みです。「人とモビリティの未来を拓く」という共通の目標に向かい、技術や組織の枠を超え、産学連携によりモビリティの新たな可能性に挑戦します。

【立命館・アイシン共同研究特別対談 記事】

アイシンの鈴木研司取締役・CSDO と立命館の徳田昭雄副学長が「人とモビリティの未来を拓く」をテーマに特別対談を実施しました。共同研究に至った背景や狙い、また連携内容などを、両者の視点からご紹介します。

記事はこちら→



(左から)鈴木取締役・CSDO、徳田副学長

記事 URL <https://www.ritsumei.ac.jp/news/detail/?id=3193>**【本件に関するお問い合わせ先】**

立命館大学広報課 担当:名和 (TEL:075-813-8300)